

論文構成

第一章	中国の愛国主義教育の変遷と学校教育への影響	1
第一節	愛国主義教育実施綱要制定過程と特徴	1
①	改革解放前の愛国主義教育	1
②	改革解放政策以後、愛国主義綱要の制定	3
第二節	愛国主義教育実施綱要の内容	4
①	愛国心教育の基本原則	4
②	愛国心教育の重点	4
③	青少年は愛国心教育の重点対象	5
④	愛国心教育に対する指導の強要	5
第三節	学校教育における愛国主義教育の実態	6
①	小学校での愛国主義教育の目標・内容・方法	6
②	中学校・高校での愛国主義教育の目標・内容・方法	7
③	教科の教育を通じた愛国主義教育	9
④	課外・校外活動を通じた愛国主義教育	10
⑤	家庭で愛国主義教育の実態と問題	11
第二章	日本の学校教育と愛国心	12
第一節	戦時・戦時の学校教育と愛国心	12
①	儒教主義修身書と愛国心	12
②	儒教主義批判	12
③	教育勅語と愛国心	13
第二節	戦後の学校教育と愛国心	15
①	戦後の教育改革と愛国心	15
第三章	愛国心における日中道德教育の比較	17
第一節	愛国心における日中道德教育の共通点	17
第二節	日中両国の学校における愛国主義（愛国心）教育の相違	18
①	性質、内容の違い	18
②	目標の違い	19
③	私の視点から見た日本愛国心教育の特徴	20
④	日中両国の愛国主義（愛国心）教育の比較	22
第四章	愛国心における日中道德教育の現状と課題	24
第一節	現在学校教育における「愛国心」教育の問題	24
第二節	愛国心が悪いのか	27
おわりに		29

はじめに

2008年に、オリンピックは中国の北京で開幕した。今後の中国の発展はどうなっていくのかを世界が注しているとともに、オリンピック期間に、若者の間で沸き起こった愛国行動に対して世界各国で論議の対象となっていた。中国では、1979年に鄧小平が一人っ子政策を実施し、1980年以降に生まれた人を「80後」世代と呼ぶ。この世代は愛国主義や民族主義に燃え、北京五輪の聖火リレーへの抗議活動に対抗する主流になった。北京五輪期間に、中国の大学の中で、学生の寮の窓に中国国旗や「我々は祖国を愛しています」「XIANG belongs to china」などのポスターを貼るなど愛国主義的なムードが強まった。その「80後」たちは「私たち1980年代生まれは茫漠とした世代と言われるが、愛国心はどの世代にも負けない」と語っている。それは中国共産党が90年代にスタートした「愛国主義教育」と大きな関係があると言える。

一方、2006年に教育基本法が改正されたことにより、今後の日本の教育においては、「愛国心教育」が大きな問題となると考えられる。特に、小学校と中学校の道德教育においては、これまで以上に「愛国心」や「郷土愛」の指導が重視され、道德教育のあり方や指導方法をめぐり、活発な議論や実践が行われることが予想される。

愛国心のない日本と愛国心にあふれる中国には、愛国主義教育におけるどのような相違があるのか。日本の学習指導要領は愛国心を強調する方向で見直し、「我が国と郷土を愛し」という文言が新たに加えられ、さらに、音楽では『君が代』はいずれの学年においても歌えるよう指導する」と明記したことによって、今後の日本は中国と同じような愛国主義問題になるのか、本論文では、中国愛国主義綱要と愛国主義教育の実態を分析し、日本の道德教育と愛国心の今後の方向性と愛国心教育における中国と日本道德教育の有様を研究したものである。

第一章 中国の愛国主義教育の変遷と学校教育への影響

第一節 愛国主義教育実施綱要制定過程と特徴

① 改革解放前の愛国主義教育（中国の近現代愛国主義）

1840年のアヘン戦争から日中戦争へて、中国の近現代愛国主義は百年余りの過程を経た。この過程の中で、伝統の愛国主義の特徴は祖国の危急を救いたいという強烈的な民族意識に支えられていた。

1840年アヘン戦争は勃発し、帝国主義列強の侵入が中国を1つの封建社会から半植民地の半封建的な社会に変貌させ、中華民族は初めて列強の強力な武装とその民族によって侵略され、民族の生存は危機に直面した。

国内外の民族の矛盾は上昇し、社会の主要な矛盾になって、民族の生存の問題を考えさせ、中華民族が集結し、外敵の侵入に反対し始めた。それゆえ、厳密に言えば、外来の侵略に反抗するための愛国主義であり。それがまた近代社会の産物だと言える。同時に中華民族が奴隷の運命を抜け出すための闘争の武器でもある。それによって、帝国主義の侵略に反対した。愛国主義の矛先は主に帝国主義の侵略者に向けられる。

1949年10月中華人民共和国が成立し、中国共産党中央政府は「德育」「知育」「体育」の発達を目指す教育方針を定めた。「德育」というのは政治教育をさし、すべての学校において、政治という道徳教育課程が開設された。すなわち「旧社会」に残ったブルジョアジー思想を批判しながら社会主義思想を国民に宣伝するためである。マルクスレーニン思想を内容とする思想政治教育がこの時期から道徳教育の重要な内容になっていた。

1966年から1976年にかけて、中国では「文化大革命」と言う政治運動が行われた。この10年間、政治が道徳の代わりに、人間の言論や行動の指針になった。学校での授業が止められ、「毛沢東語録」が学ばせられた。孔子、孟子など歴史人物が封建思想の代表として批判された。孔子、孟子の著作や格言が、社会主義と対立する反動言論として、批判された。集団の間の争いや公共物の破壊などの行動がしばしばあらわれた。秩序が混乱し、社会の風紀が乱れていた¹⁾。

文化大革命が終わった翌年に、中国政府が悪くなった社会風紀を改めるため、基本的文明習慣を提唱し、「五講四美」と言う運動を行った。文明、礼儀、衛生、秩序、道徳の五つに気を配り、心、行動、言語、環境の四つを美しく、祖国、共産党、社会主義の三つを愛すると言うものである。また、社会を安定させるため、学生が社会主義社会に奉仕するための精神を育成するため、文化大革命で止められた道徳授業を学校で再開した。1977年3月「政治」という道徳科目が再開された。1977年10月12日、文化大革命で廃止されていた大学の入学試験が再開された²⁾。「政治」と言う道徳科目が入学試験の一つとして定められた。

中国は1978年から改革・開放政策、90年代からは社会主義市場経済路線を進めてきた。そのため従来からの共産党の社会主義イデオロギーは重要性を失い、中国は脱イデオロギー化に向かっているとされている。このような状況に対して中国共産党は危機感を持ち、中国の統合を支える新たなイデオロギーとして「愛国主義」を持ち出してきた。特に90年代から青少年に対して愛国主義教育を強化する動きがある。愛国主義教育は常に重視されてきたと言える。鄧小平は、実権を握り改革解放政策を推進する中で、愛国主義精神発揚の必要性和、共産党・国・社会主義を愛することを教える教育の必要性を、繰り返し強調していた³⁾。

江沢民時代に入り、愛国主義・集団主義・社会主義の思想教育、特に愛国主義教育をさらに一層強化する必要性が繰り返し強調されるようになった。愛国主義教育に関しては1994年に共産党の中央宣伝部が「愛国主義教育実施要綱」を起草し、愛国主義教育は教育上重要と位置づけられるようになった。

この三つの段階から見れば、愛国主義の時代特徴は社会の主要な矛盾と関係ある。①、帝国主義列強に侵略された時、愛国主義の特徴は主に外敵の侵略に反対することである。②、中国共産党内の矛盾になった時、愛国主義は主に本国の反動支配階級の闘争に反対することである。③、社会安定する時、愛国主義は主に統治者の政治の武器になったことである。

② 改革解放政策以後、愛国主義綱要の制定

鄧小平は、実権を握り改革開放政策を推進する中で、愛国主義精神発揚の必要性和、共産党・国・社会主義を愛することを教える教育の必要性を、繰り返し強調していた。したがって、改革開放政策以来の中国において、愛国主義教育は常に重視されてきたといえる。

江沢民時代に入り、社会形勢の急激な変化の中で、愛国主義・集団主義・社会主義の思想教育、特に愛国主義教育を一層強化する必要性が繰り返し強調されるようになり、今後の愛国主義教育のありかたを規定する重要政策として「愛国主義教育実施綱要」が制定されるに至った。

「愛国主義教育実施綱要」は1994年8月23日、共産党中央宣伝部により制定された。その制定準備作業には1年余りの歳月が費やされている。1993年3月、教育現場における愛国主義教育の実施状況についての調査が開始された。それと同時に、先進諸国の愛国主義強化政策に関する資料の収集が進められ、国内民主党（非合法政党）や専門家、教育関係者などからの意見聴取も行われた。その結果が「愛国主義教育の状況に関する調査報告」としてまとめられ、これを基に「愛国主義教育実施綱要について」の初稿が1993年8月に発表された。その後、1994年3月下旬に「愛国主義教育実施綱要（意見募集のための草案）」が示され、中央・地方政府、各界各層への意見聴取と草案の改訂が繰り返され、1994年8月に正式決定された。この間、2000人以上が草案の検討に関わったという⁴⁾。

共産党中央宣伝部は「愛国主義教育実施綱要」の特徴として、四点を挙げた。①、改革開放、社会主義市場経済という時代の特徴を明瞭に反映したものである。②、「実施」に重点を置き具体性の高い規定であること。③、長期的な視点に立って愛国主義教育システムの確立を目指すものである。④、実行可能性を重視したものである。

第二節 愛国主義教育実施綱要の内容

以下のことは中国共産党中央委員会が発表した「愛国主義教育実施綱要」を参考にしてまとめたものである。

① 愛国心教育の基本原則

愛国主義教育を展開する目的は、民族精神を奮起させ、民族の凝集力を増強し、民族の自尊心と誇りを確立し、最も広範な愛国統一戦線を強化発展させ、国民の愛国的熱情を、中国的特色のある社会主義建設の偉大な事業と祖国の統一・繁栄・富強への貢献に凝集させ、理想と道徳と文化と規律を有する社会主義国民を育て、四つの現代化と中華振興という共通の理想のために団結奮闘させることである（2条）。

愛国主義教育は対外開放の原則を堅持しなければならない。愛国主義は決して狭隘な民族主義ではなく、我々は中華民族の優秀な成果を継承し、発揚するだけでなく、資本主義先進国を含む世界各国が創り出したあらゆる文明の成果を学習し、吸収しなければならない（4条）。

② 愛国心教育の重点

愛国主義教育の素材は極めて幅広いものである。過去の歴史から現在の事象まで、物質的なものから精神的なものまで、社会生活のあらゆる面から愛国主義の素材を掘り起こし、愛国主義教育の内容を豊かにしなければならない（6条）。

中華民族の悠久の歴史についての教育を行わなければならない（7条）。

中華民族の優秀な伝統文化についての教育を行わなければならない（8条）。

共産党の基本路線と社会主義現代化建設の成果についての教育を行わなければならない（9条）。

中国の国情についての教育を行わなければならない（10条）。

社会主義における民主主義と法制についての教育を行わなければならない（11条）。

国防と国家の安全についての教育を行わなければならない（12条）。

民族の団結についての教育を行わなければならない（13条）。

「平和的統一、一国二制度」の方針についての教育を行わなければならない（14条）。

③ 青少年は愛国心教育の重点対象

「愛国主義教育実施綱要」では、「愛国主義教育は全国民に対する教育であるが、その重点は青少年である（15条）。学校教育においては、幼稚園から大学まで愛国主義教育を徹底させなければならない（16条）。公的機関、企業などにおいても、青少年に対する愛国主義教育を重視しなければならない（17条）。青少年に対しては、テレビ、映画、書籍、音楽、演劇、美術などの手段を用いて、豊かで生き生きとした愛国主義の教材を提供しなければならない（19条）。」と強調した。

④ 愛国心教育に対する指導の強要

「愛国主義教育実施綱要」の中に、国旗をどう敬い、国歌をどう歌うべきかなどこと細かく、29条、30条と34条に規定している。

「中華民族は愛国主義の光栄ある伝統に富んだ偉大な民族である。愛国主義は、中国人民を団結して奮闘するよう動員し、鼓舞する民族的旗じるしであり、中国の社会の歴史的前進を推し進める巨大な動力でもあり、各民族人民の共通の精神的柱でもある。現在、中国の人民は、中国的特色を持つ社会主義を建設するという理論と、党の基本路線の導きの下で、社会主義市場経済を大いに発展させ、富強・民衆・文明の社会主義現代化の国家を建設することに努めている。新たな歴史的条件下で、愛国主義の伝統を継承し、発揚することは、民族精神を奮い起こし、全民族の力を凝集させ、全国各民族人民を団結させ、自力更生、刻苦奮闘、中華民族の振興のために奮闘する上で、大変重要な現実的意義を持つ。各級党委員会と人民政府、各関連団体と人民団体は、この活動を高度に重視するとともに、それぞれの活動の特色と結びつけて、積極的に愛国主義教育を繰り広げなければならない。」

このように、愛国主義教育は中国の重要な国策となることになった。愛国主義教育は全国民の間で進められるとともに、その重点は広範な青少年にあると規定している。特に、学校については、青少年に対して教育を行う重要な場所であり、愛国主義教育を幼稚園から大学までの教学、人づくりの全過程に徹底させなければならないと規定している。

第三節 学校教育における愛国主義教育の実施

①学校での愛国主義教育の目標・内容・方法

1994年8月23日に実施された「愛国主義教育実施綱要」に従って、小学校において、いろいろな愛国主義教育活動が設けられ、愛国主義教育がいつそう重視されるようになっている。愛国主義教育の目標を実現するために、学校の道德教育において、小学生向けの系統的、計画的な道德教育を始めた。小学校の德育目標は、「国を愛し、労働を愛し、社会主義を愛する情感を育成する；自覚的に社会公德、文明行為習慣を遵守する；善悪を判別する能力を育成する；学生を『徳・知・体』全面にわたって発達させた社会主義の建設者・後継者にするために、良好な思想品格の基礎を固める」と示された。学校での道德教育の内容や基本の要求は、以下の10点をまとめた。①祖国を愛するための教育。②中国共産党を愛するための教育。③人民を愛するための教育。④集団を愛するための教育。⑤労働を愛し、刻苦奮闘するための教育。⑥勉学に励み、科学を愛するための教育。⑦洗練された礼儀と規律遵守のための教育。⑧良好な意志と品格のための教育。⑨民主と法制の観念について啓蒙する教育。⑩弁証法的唯物論の観点について啓蒙する教育。

これらの内容をもつ愛国主義教育は、①各教科の教育、各学科の学習内容との関連が重視されている。特に、語文（国語）という科目との関連は極めて緊密とされる。②教科以外の活動では、国旗掲揚の儀式や各種集会をはじめとする学校や学級での諸活動。特に、毎週月曜日の朝、授業が始まる前に、学校の校庭で国旗の掲揚式が行われている。国旗の昇降や国歌の演奏時には直立し、脱帽し、注目し、少年先鋒隊員は隊の敬礼を行う。この活動を通じて、学生に国旗を愛し、国歌を愛する感情を育成するということを目指している。③学校内に置かれている中国共産党傘下の青少年組織である少年先鋒隊の活動を通じて行われる。たとえば、愛国主義を主題とする会議、参観、キャンプ、講話を聴く会などがある⁶⁾。

さらに、愛国主義教育を行う際の原則としては、あくまでマルクス主義と中国共産党の基本路線に従い、正しい政治的方向を堅持することにある。しかし、小学校における愛国主義教育はいくつかの課題があると思われる。主なことは二つがある。一つは、思想・政治教育が愛国主義教育の内容に、高い比率を占めている。もう一つは、生徒の判断力、選択力および創造力を育成することがあまり重視されてない。かつての中国の教育の内容（道德教育を含む）は、ほぼ絶対的真理という形で表現されていたため、生徒の判断力、選択力および創造力を養うには、かなり大きなブレーキになっていたことに違いない⁷⁾。

今の中国における道德的知識（愛国主義教育）で重要なことは、以前では知識の教え込みであったのに対し、現在は実践的指導を極めて重視し、あらゆる生活の場面や人間関係の中でそれを実践させることである。

② 中学校・高校での愛国主義教育の目標・内容・方法

1994年8月23日、中国共産党中央委員会が「愛国主義教育実施綱要」を公表した。「愛国主義教育綱要」には、愛国主義教育は全国民に対する教育であり、特に全ての青少年に対する教育であるということを強調している。青少年の教育の場所である学校において、愛国主義教育がいつそう強化されるようになった。

1995年2月27日、中国国家教育委員会が「中学校徳育大綱」を公布した。中国の普通中等教育機関は中学校に当たる初級中学、高校に当たる高級中学になり、「中学校徳育大綱」は中学校と高校に両方を入れたものである。「中学校徳育大綱」においては、中学校と高校における愛国主義教育の目標ははっきり示された。すなわち、「社会主義祖国を愛し、社会公德と文明的行為・習慣を持ち、法律・法規を守ることができる公民になるために、学生に科学的人生観・世界観を樹立させ、社会主義的思想・覚悟を向上させるべきである」ということである。それによって、中学校と高校に対して、学級ごとに具体的な目標と内容が別々に示された。

中学校においては「祖国や郷土を愛し、故郷の建設に関心を寄せ、民族自尊心・国を誇りに思う心を持ち、祖国の社会主義近代化を実現できるように一生懸命勉強する志をたてる；人民に奉仕するという考え方を確立する。国民として、国家観念・道徳観念・法制観念を樹立する；」が求められる。

高校でも同様に、「祖国を愛し、国家のために全力を尽くす精神をもち、社会主義初級段階における共産党の基本路線を擁護する。中国の社会主義現代化に向かって、奮闘する理想志願と人生観を樹立する。公民の責任に負い、自覚的に社会公德・憲法・法律法規を守れる。」「中華の振興と郷土の建設の事業に責任感を持ち、個人の前途と社会主義建設の需要とを結びつける。マルクス主義の観点から社会現象を観察し分析し、国家や集団の利益と個人の利益とを結びつける社会主義的集団主義の精神を身につける。」が求められる。

「中学校徳育大綱」における徳育の内容では、愛国主義教育が一番に位置づけられて、中国政府が愛国主義教育を重視する意向を表したと理解される。

「愛国主義教育実施綱要」では、「愛国主義教育を通じて、学生に祖国を愛することは、中華民族の勤労精神を発揚して、中国が現代化された社会主義国家になるため一生懸命勉強し、自分の青春と知恵を国家に貢献することを分からせる⁸⁾」ことを強調している。

中学校と高校において行われている愛国主義教育は、道徳教育の授業だけではなく、歴史科目、語文科目（国語）を通して学生に教えられる。

中国共産党宣伝部は、香港返還にあたり、古代から現代までの中国の歴史を対象にして、第一次「愛国主義教育模範基地 100ヶ所」のリストを作成し、公表した。2001年6月11日、つまり中国共産党創立80周年の目前に、中国共産党の歴史を主な内容として、第二次「愛国主義教育模範基地 100ヶ所のリスト」が中国共産党宣伝部によって作成され、公表

された。これは中国共産党創立 80 周年という時期と大きく関わりがあると考えられる。そのほか、「愛国主義教育映画 100 巻」「愛国主義教育図書 100 冊」「愛国主義教育歌曲 100 曲」⁹⁾ も指定した。中学校と高校に、このような啓発活動を道徳授業に組み入れ、積極的に愛国主義教育を行っている。

③ 教科の教育を通じた愛国主義教育

90年代には小学校で「思想品德」、中学校、高校で「思想政治」という道徳授業は、21世紀になって、カリキュラム改革の中で変化を遂げた。2001年5月29日に国務院から出された「基礎教育の改革・発展に関する決定」及び同年6月8日に教育部が出した「基礎教育課程改革綱要」に基づいて9年義務教育カリキュラムと高校のカリキュラムとが刷新された。その中で、従来小学校で使われた「思想品德」は「品德と生活」に名称変更され、従来中学校で使われた「思想政治」は従来小学校の「思想品德」に名称変更された。高校では以前の「思想政治」と呼ばれた道徳教育授業を行っている。道徳授業への配当時間の比率においては、改革されたカリキュラムは改革前より3%に増加した。全体としては道徳面での強化策を窺うことができる。

9年義務教育における道徳授業の狙いは、「マルクス、レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論をもって指導し、『三個代表』¹⁰⁾を真剣に貫徹し、社会発展についての常識や中国の基本的国情に関する教育を行う。生徒と学生たちは祖国、人民、労働、科学、社会主義を愛する考えや感情を持ち、礼儀正しく、基本となる思想的観点と道徳観念の上で是と非を判断できる能力を身につけさせ、崇高な理想と社会的責任感を樹立させ¹¹⁾」ということである。

高校では、「マルクス主義経済学、哲学、政治学の基本観点、中国の社会主義現代化建設についての常識を講じ、生徒が社会を観察し、問題を分析し、人生の道を選択する上での科学的な世界観、人生観、価値観を形成する、良好な政治、思想、道徳的素質をもった公民になるようにする¹²⁾」と記入した。

文化大革命以後特設された道徳以外の教科にも、愛国主義教育を含んだ指導が行われている。たとえば、小学校の国語の教科書に取り上げられる題材の一つに「私の戦友・邱少雲」という文章がある。これは、朝鮮戦争中に戦線の赴いていた人民志願兵が敵の焼夷弾で周囲の草に火が付き、烈火が身に迫っていても、味方の待機部隊を隠す任務を果たすために全く動かず焼死した逸話である。また、米国留学で身につけた土木と鉄道技術により、清末・民国初期に中国初の本格的鉄道技師として鉄道建設を指導し、祖国の近代化に尽くした人一詹天佑にも国語教科書に取り上げられる。さらに、「万里の長城」「桂林の山水」といった有名な建造物や自然を扱った内容も取り上げられる¹³⁾。これらの人物が置かれる時代や背景及び心の動きを分析させることを通じて、また名所旧跡が持つ意義を考えさせることを通じて、愛国主義教育を浸透した。

また、数学（算数）の授業で小数について数える時に、紀元前3世紀に世界に先駆けて中国が小数を使用していたことを教え、地理の授業で祖国領土の広さと物産豊富などに触れて、授業の中に民族としての誇りや自尊心を持たせるように実践を行っている教員もいる。その他、物理の授業で、「中国の水資源の開発と利用」や中国古代の羅針盤は司馬の發明など、理論の勉強をしながら、そこに愛国主義教育が込められた¹⁴⁾。

④ 課外、校外活動を通じた愛国主義教育

教科指導と並んで、道徳教育の実践の重要な手段は課外、校外活動である。国の祝祭日・記念日に行われたいろいろの集会や行事への参加、革命に殉じた人々の遺族の慰問、模範的な労働者・革命の先達・著名な科学者・芸術家など各界の模範人物の訪問、各種の展覧会、重要な建設工事現場・模範的な組織、各所旧跡の参観など多様な活動が行われる。2004年5月1日から、全国の博物館、記念館、美術館は未成年者が集団で参観の場合には無料になった。

また、学校においては共産主義青年団・少年先鋒隊という共産党傘下の青少年組織がある。共産主義青年団は14歳から25歳までの青少年で構成され、彼らは成績が優秀で、共産主義事業及び社会事業に奉仕する覚悟がある学生たちである。団規約には「中国の先進的青年の大衆組織であり、共産主義学ぶ学校であり、中国共産党の助手である」と規定されている。その活動には、政治・思想面での学習会、報告会、座談会、各種の参観、映画鑑賞などが含まれる。共産主義青年団に指導されるのが7歳から14歳までの学校で成績優秀な生徒から構成される少年先鋒隊である。通常、学校ごとに大隊が置かれ、各学年に中隊、各クラスに小隊が置かれる。少年先鋒隊の活動には、愛国主義を主題とする会議、参観、キャンプ、講話を聞く会などがある。

特に、国慶節、中国共産党成立記念日などを機会にして、学生に愛国主義教育を行う。例えば、毎年3月5日には、全国規模で「雷鋒¹⁵⁾の手本に学び¹⁶⁾」という活動が行われている。この日、各小・中学生が教師に引率され、街や老人ホームなどの所に行き、年寄り、体が不自由な人の手伝い、街の環境を美しくするための清掃活動などのボランティア活動を行う。このような活動を通して、かれらに思いやる心を持たせること、また、人との助け合う心を育成することを目指している。

その他、博物館で、美術館で、文物、絵、写真などを鑑賞することを通して、かれらの心に美しいものに対する印象が刻まれるとすれば、かれらの美しいものに対する感覚が育成されるようになる。同時に、先人が残した文化遺産は、学生の愛国心もしくはふるさとを愛する心の育成にとって重要な役割をはたす。

また、軍人、企業の先進労働者、大学の教授、スポーツ選手など幅広い層からの人々が学校の「校外指導員」として委託され、政治思想教育講演会を開いたり、ボランティア活動、キャンプなどの体験学習を指導する。

夏休みと冬休みに、多くの学校は短期の「夏令营」「冬令営」という見学旅行を行っている。これらの活動より、他の学生と共に暮らしたり、遊んだりする過程を通して、学生の団体精神が育成された。

⑤ 家庭の中で愛国心の実体と問題

学校、家庭及び地域社会の三つ場所は、生徒と学生の重要な生活、学習の場である。中国において、昔から家庭教育を重視されている。およそ 2500 年前には孔子の「三字経」の中に、「養不教、父之過」という名言がある。意味は、子どもを養いてしつけをしないと、父の過ちである。

家庭という教育の場所は、子どものしつけに大きな影響を与えてきている。しかし、中国では、激しくなっている受験勉強の影響を受けて、親が子どもの知育の発達を極めて重視するようになっている。子どもの将来性が極めて重視されている。親は子どもの高学歴を希望することが今の中国における社会の現実である。

一方、2001 年、教育部が「保送生政策」を実施した。それによると、道德教育の評価方法に関して、優秀、良好、及第、不合格という四つの段階で評価する。各学年、特に最終学年で道德教育が「不合格」の評価を受けた者は正式卒業資格が認められず、逆に、3 学年とも「優秀」と評価された中学生は評判のいい高校へ無試験で推薦入学が可能となる。学校教育における道德教育が高い位置を占めている。この道德教育の内容は①、初歩的なマルクス主義の常識の教育。②、愛国主義と国際主義の教育。③、社会主義の民主と法制および規律に関する教育¹⁷⁾という三つの点を中心に構成される。

中国においては高学歴の若者が多いという原因で、若者の就職が難しいことになっている。親は、子どもを大学へ進学させる以外、いい方法がないという現実的な考えで、数学、国語、英語などの勉強を重視する上に、道德観念の強化をも課題になっている。

たとえば、教師は道德（愛国）を内容にする読み物を親に紹介し、親はその内容を子どもに教えることで道德観念を育成しようとしている。

それゆえ、親たちは子どもの「道德（愛国を含む）教育」、「知育」などの全面的な発達を重視するようになった。

第二章 日本の学校教育と愛国心

第一節 戦前・戦時の学校教育と愛国心

① 儒教主義修身書と愛国心

文部省は、1880年8月から9月にかけて修身教科書の統制に乗り出すとともに、それより早く同年4月に、文部省教科書編輯局長西村茂樹編「小学修身訓」が発行された。ついで、1883年6月には「小学校修身書初等科之部」、翌年11月には「小学校修身書中等科之部」が発行された。これらが改正教育令下における儒教主義修身書を代表するものである。ここで儒教主義修身書とは、仁義忠孝に代表される伝統的な儒教倫理を天皇制国家にふさわしく再編成したものと言える¹⁸⁾。「尊王愛国ノ心」を養成することを中心にしなければならないという目標にした。「他方、儒教主義教育体制は開明派知識人たちの批判の的となり、明治10年代から20年代初めにかけて徳育論争が盛んに展開されてくる。儒教主義道徳に対してもっとも激しい批判者であったのが福沢諭吉であり、かれは1882年『徳育如何』において、自主独立を軸にした道徳を主張している¹⁹⁾。」従って、「当時の道徳思想は、和漢洋、古今入り乱れて混沌たる状態を呈し、これに対する国民の態度もまた、保守革新、新旧相対立して全く帰一するところのないありさまであったのである²⁰⁾。」と言われている。

② 儒教主義批判

1885年、初代の文部大臣に就任した森有礼は儒教主義修身書を批判した。森有礼は孔孟の説教が迂闊し、宗教にも頼らず、哲学にも頼らず、「孔孟の教」にかえて「自他併立」²¹⁾という説をたて、徳育の思想にしようとした。

森有礼は「国家主義」を提唱し、すべては「国家のため」として教育の目的を国家の富強に求める。つまり、その国家富強の根本を国民の「忠君愛国」の「志気」に求める²²⁾。

「国民の志気」を培養し、「忠君愛国の意」を全国に普及させるため、森有礼は一連の「学校令」を制定した。1886年、「小学校令」が公布された。小学校が尋常・高等の二等（各四カ年）に分けられた。修身科においては、もともとの「熟読暗記」にかえて、児童に適切で理解しやすい教員の「談話」と教員自身による「言行ノ模範」を重視することが森有礼の方針である。

明治10年代後から20年代初めにかけて、徳育の主義・方針をめぐる「徳育論争」が展開された。この論争の根底にあったのは、保守派の伝統的儒教主義と開明派の反儒教主義との対立であった。ところが、沼田裕之は、「森有礼刺殺後の情勢の変化の中で、徳育をめぐる状況の混迷は徳育方針官定化を求める保守派に有利に作用し、教育勅語発布への道を開くことになったのである²³⁾。」と述べている。

③ 教育勅語と愛国心

戦前日本の道德教育の特徴において、教育勅語の精神が、学校教育における修身科を通じて、国民の生活や意識のすみずみに浸透するよう強制されたのである。

1890年、「教育ニ関スル勅語」が發布した。それまでには、一定することのなかった徳育の方針を定めるために、天皇の名において発せられたものである。教育勅語發布の翌年、井上哲次郎著・中村正直訳「勅語衍義」が發布された。「勅語衍義」は当時の教育勅語解説書を代表するものとして広く教科書に用いられた。井上哲次郎は教育勅語の主意を「孝悌忠信」と「共同愛国」という二つの言葉で説明した。「孝悌忠信」は伝統的な儒教論理である。「孝」は親子の関係、「悌」は兄弟の関係、「忠」は君臣の関係、「信」は朋友の関係を指している。「共同愛国」の実体が天皇とその国家への服従に方向づけられ、「愛国」が「忠君」に従属し、つまり、政治上の君主である天皇が同時に道德上の君主でもある。授業には国定教科書が用いられるようになった。それによって、道德が国定化された。道德の国定化を意味する教育勅語の異端排除的な性格を、その發布の翌年に起こった「内村鑑三不敬事件」、またそれにつづく「教育と宗教の衝突」論争に見ることができる²⁴⁾。この時期の日本は他国を侵略するという国際情勢を前提として、天皇を神とし、国家神道を思想的な支柱とした。天皇のために死ぬことが名誉なことであり、そういう思想を育成するため、天皇制を中心とする道德観を確立するための教育が行われた。

1886年に制定された小学校令にかわって、1890年10月に、新たな小学校校令が制定された。その第一条では「小学校ハ児童身体ノ発達ニ留意シテ道德教育及国民教育ノ基礎並其生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス」と定めた²⁵⁾。そこに「道德教育及国民教育」という言葉がとりたてていわれている。実際には、「忠君愛国」の精神に方向づけられた。そしてここに定められた小学校教育の目的が小学校教育を基礎づけた。翌年、修身が「教育ニ関スル勅語ノ旨趣」にもとづくべきことをはじめとして、「殊ニ尊王愛国ノ志氣」を養うべきことなど、修身教授の内容と方法が尋常小学校、高等小学校に規定された²⁶⁾。

さて、実際に「忠君愛国」はいったいどう教えられたのか。主に学校教育の場で学校儀式と教育内容の二つの面から浸透していった。

以下、藤田昌士による「学校教育と愛国心」を参考にし、まとめたものである。

国民の「挙国一致の精神」を求めため、「忠君愛国」という題目に統一されなければならないという。「忠君」と「愛国」は一つの授業に統合された。その内容をみると、第三期の修身教科書（第六学年）には「忠君愛国」という授業があった。教科書の中の第三期第六学年「忠君愛国」で「我等はよく我が身を修めて善良有為の人となり、祖先の美風をついで、国の大事に際しては身命をさげて君国を守り、平時に於ては各その職分を尽して我

が国の富強を増し文明を進め、忠君愛国の実をあげなければなりません。」との記述があり、また、第四期第三学年「忠君愛国」の授業では、「明治三十七八戦役」において敵情を偵察し、とらえられて処刑された小林環大尉と向後三四郎伍長の話も登場した。戦争に取材して「みをすてて」戦ったという話であった²⁷⁾。

以上のような修身教育における「忠君愛国」が中心徳目として学ばせられた。

学校儀式では、1891年に「小学校祝日大祭日儀式規程」が制定された。国家祝祭日のそれぞれに応じて、儀式の内容を定めた。紀元節（2月11日）、天長節（当時は11月3日）、元始節（1月3日）、神嘗祭（10月17日）、新嘗祭（11月23日）については、天皇・皇后の「御影」に対する最敬礼と万歳奉祝、勅語奉読、勅語にもとづく学校長もしくは教員による誠告、その祝祭日に相応する唱歌の合唱という、その後引き継がれる儀式の基本型が示されている。この規程によって、1892年頃から国家祝祭日における学校儀式が全国的に行われるようになった。とくに、1914年3月に、国民学校令施行規則第四十七条において、あらためて「紀元祭、天長祭、明治節および1月1日」という四大節に儀式を行うことが定められた。儀式の内容は前述の場合と同じである²⁸⁾。

戦前の日本の学校教育では、天皇に忠誠を尽くす教材が多い。極度に忠君愛国を主張し、軍国主義的・超国家主義的な教育内容を押しつけられたことは明らかであろう。

第二節 戦後の学校教育と愛国心

① 戦後の教育改革と愛国心

1945年7月26日、日本の降伏を呼び掛けるポツダム宣言が発せられた。ポツダム宣言に反映した反ファシズムの国際的世論を背景に、GHQ（連合軍総司令部）の「教育についての四大指令」²⁹⁾によって民主化の措置が進められた。

翌年、日本国憲法は発布された。日本国憲法は、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義（戦争の放棄）をその重要な三つの原則として揚げた。教育は以前の「臣民の義務」から「国民の権利」に転換した。この日本国憲法をうけて、1947年3月31日、教育基本法が制定された。第一条教育の目的では、「教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」と定め、教育勅語にかわる新しい教育の理念を明らかにした。

1945年のGHQ指令によって日本歴史・地理とともに修身の授業停止が命じられた。1947年教育基本法が施行されるとともに、翌年には、戦前教育を支配した教育勅語等の排除・失効確認決議が、国会において行われた。戦前の道德教育の支柱であった教育勅語や修身は排除されたが、その代わりに、憲法・教育基本法の精神のもとに、新しく社会科や家庭科などが創設された。教科目として「道德」が排斥されたが、学校教育の中で、教科指導や生活指導など、学校教育全体を通して、民主的な道德性を身につけさせるように転換した。

1948年1月、中国の南京政府軍と人民解放軍との内戦が人民解放軍に有利に展開しつつある過程で、ロイヤル米陸軍長官は、日本は共産主義への防壁との演説を行った。翌年、連合国軍最高司令官マッカーサーはアメリカの独立記念日の際に、日本は共産主義進出阻止の防壁との声明を行った。1949年10月1日、中華人民共和国が成立したことによって、マッカーサーは、日本国憲法は自衛権を否定せずと言明した。また、1950年の朝鮮戦争の勃発をきっかけとして、警察予備隊の創設を指令した。自衛のための愛国心が、文部大臣によって強調された。このようなアメリカの対日政策の転換と日本の国際社会における地位の変化、1958年に「修身」ともいえる小、中学校に「道德」の時間特設され、道德教育の強化をはかって、官製「道德教育」が強行された³⁰⁾。

「愛国心」教育への要求が「日本人」という言葉に託されているものと見ることができる。それが「道德」の時間を特定した。特に、1958年に改訂された小学校学習指導要領の第三章（道德）の中で、愛国心に関しては、「日本人としての自覚を持って国を愛し、国際社会の一環としての国家の発展に尽くす（低学年においては、国民的な心情の芽ばえを育てることを指導の中心とし、中学年においては、さらに、日本の国土やすぐれた文化・伝統をたいせつにすることを指導し、高学年においては、国家の繁栄を願い、国民としての責任を自覚して、国際社会の一環としての日本の発展に尽そうとする意欲を育てることなどを加えて内容とすることが望ましい。）」というふうに述べられている。

実際に、学校において愛国心はどのように教えられたのか。文部省「道德の指導資料」

の中から、愛国心教育は主に三つの手段で教えられる。①、国旗に即して「国民としての自覚」や「国民的心情」を育てる。②、日本の自然や伝統文化に即して日本人としての「誇り」や「自覚」を育てる。③、内外の歴史上の人物を取り上げて「国を愛する心情」を育てる³¹⁾。

また、中曽根内閣が設置した臨時教育審議会は、1987年8月7日の最終答申で、「日本人として国を愛する心を持つ」必要があることに関連して、学校教育では国旗・国歌の適切な取り扱いがなされるべきであるとした。これを受けて、同年12月24日に教育課程審議会が国旗の掲揚と国歌の斉唱を明確にするよう答申。1989年3月15日告示の学習指導要領ではその義務づけが図られた。さらに1999年8月13日には、「国旗及び国歌に関する法律」（国旗、国歌法）が制定された。それによって、「日本人としての自覚を養い、国を愛する心を育てる」という目的が明らかになった³²⁾。

これに加えて2002年4月1日には、文部省編纂による「心のノート」が全国すべての小・中学校の児童・生徒に配布され、いわば国定版の道徳教科書として使われることになった³³⁾。これによって、国旗への敬礼や国歌の斉唱といった愛国心教育に加えて、心の深層に踏み込んだ愛国心教育が行われるようになった。

2006年12月15日には愛国心を盛り込んだ新教育基本法が成立した。これまで以上に「愛国心」や「郷土愛」の指導が重視された。

第三章 愛国心における日中道德教育の比較

① 愛国心における日中道德教育の共通点

まず、日中両国は一衣帯水で、同じ儒家の文化の影響をうけ、似ている文字を持っている。伝統文化への尊重は日中道德教育の共通点である。中華文明が発展する中で、伝統の文化を形成し、哲学、社会科学、文学芸術、科学技術などの面だけではなくて、文化遺産の史跡、著作などは愛国主義教育を行う際に重要な文献となった。

同じく、日本は長い歴史の流れ中で多くの文化影響をうけ、独自の伝統文化が生じた。例えば、華道、茶道、書道、武道、など。それらの伝統文化を尊重し、さらに、日本歴史上で国のために貢献した人物をも尊重していることがわかる。江戸の末期、明治の時代の福沢諭吉の肖像が最高の額の紙幣として使用し始められた。福沢諭吉は有名な教育家であり、強烈に国を愛する人でもあり、彼は日本が決して欧米植民地にならないという信念を持ち、努力した。

また、愛国心を養うため、日中両国の学校は授業で愛国主義（愛国心）教育を展開し、学校教育を通して、愛国主義（愛国心）教育を教えることを主な目標にした。

中国では、「愛国主義教育実施綱要」と「中学校思想政治、小中学国語、歴史、地理学科教育綱要」の要求に基づき、各学科（自然科学を含む）で愛国主義教育のための計画を制定し、愛国主義教育が教科教育を通して行われている。大学にも積極的に環境を整備し、中国歴史や文学、美術、科学技術などの内容の伝統文化の選択科目を開設し、愛国主義教育を重要な内容とする特定テーマ講座を開設する。

日本では、2008年3月には小学校および中学校の学習指導要領が改訂された。第一章総則第1教育課程の一般方針の2で「学校における道德教育は、道德の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり」さらに、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し」という文言が書き加えられた。こうして、日本の学校における愛国心教育が「道德授業」を通じて、指導されることとなるであろう。

② 日中両国の学校の愛国主義の教育の相違

I、性質、内容の違い

中国では、愛国主義の具体的な内容は歴史の変化に従って変化することである。すなわち、中国の愛国主義教育は古代の愛国主義教育、近代の愛国主義教育と現代の愛国主義教育の三つの時期に分けられる。

古代の愛国主義教育は主に「修身」「齊家」「治国」「平天下」を中心とし、忠義を尽くして国に報いることを育成することである。

近代の愛国主義教育は「救国図存」の思想することを柱としており、つまり、“国難を救って、生存をはかる”ことの意識を持つことがねらいである。

現代の愛国主義教育の内容は①国を愛すること、独立自主および改革開放の統一。②国を愛すること、共産党を愛する及び社会主義を愛することとの融合。③愛国主義の思想と愛国主義行動の統一である。

日本では、大きな流れととらえると、第2次世界大戦前と第2次世界大戦後に分けられる。まず大戦前までは、天皇を神とする国家神道を思想的な支柱とし、天皇の名のもとに死ぬことができる青少年達を育成するため、天皇制を中心とする道德観を確立するための愛国心教育が行われた。それから、大戦後、GHQの介入により、民主化が進み、天皇がいわゆる「人間宣言」を行った後、教育現場で公的なものとして、「日の丸」掲揚・「君が代」斉唱を行うことに強く反対した。このように、愛国心教育はほとんどの公立学校で実施されてなかった。

近年には、伝統や文化に対する誇りがなく、「愛国心」が希薄化になったのではないかと危惧され、愛国心教育の欠如によってもたされたものとし、平成2006年に教育基本法が改正された。教育基本法第二条教育目標五の中で「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」と条文化された。今後、「国」や「郷土」を愛する心情を盛り込む公立小学校が増え続けることになるかもしれない。

II 目標の違い

中国の愛国主義教育の目標は政体の影響を受けたものである。50年代から文化大革命前までには、学校の愛国主義教育は、「五愛」を学ばせることを重点にした。「五愛」とは、祖国を愛する、人民を愛する、労働を愛する、科学を愛する、公共の財物を愛する、の五つの愛を実践できる公民を育成することを目指す。

文化大革命期間には、集団間の争いや公共物の破壊などの不良行動がしばしば現れた。そのため、「毛沢東語録」が人々の言論や行動などの指針となって学ばさせられた。

70年代末から90年代には、社会を安定させ、社会主義社会に奉仕する精神を育成するために、学校の愛国主義教育には、「政治、思想、道徳、法制」といった四つの目的が含まれていた。

鄧小平は改革開放政策以後の中国においては、愛国主義教育を常に重視すべきだと提唱し、その上に、江沢民時代に入り、愛国主義教育の重要性が繰り返し強調された。1994年8月23日、中国共産党中央宣伝部が発表した「愛国主義教育実施綱要」が今の学校愛国主義教育の指針として、積極的に活用されている。

戦前の日本における愛国心教育は、「愛国」が「忠君」（天皇に対する忠義）と接合され、「忠君愛国」を目標として行われた。

1945年7月26日、中、米、英三国によって日本の降伏を呼び掛けるポツダム宣言が発せられた。その宣言によって、日本は「無責任ナル軍国主義」として世界から駆逐された³⁴⁾。

そのため、日本は軍事、経済、政治、教育などの面で改革させられた。戦敗から1958年までには、民主主義社会で判断力と実践力に富んだ自主的、自律的人間を形成するため、学校における道徳教育は「真理と正義を愛し、個人の価値を尊重し」を内容として行われた。

今日の日本の学校教育における道徳教育の目標は、教育基本法第二条教育目標五の中で「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度と養うこと」である。

戦敗の日本の道徳教育は「国家主義」という愛国心教育のかわりに、民主的な人間の育成を目指すことになった。しかし、教育基本法が改正されたことにより、「愛国心」と「郷土愛」の指導が重視されることになるかもしれない。また「イラク派遣問題」と「北朝鮮問題」の視点から考えてみれば、右翼は「愛国心」教育を踏み台にして、「戦争できる国家」にしようと予想できる。

③ 私の視点から見た日本愛国心教育の特徴

まず、日本歴史上における愛国心の流れから述べたい。明治時代から日本の戦敗までに

は、日本の愛国心教育の大きな特徴は天皇制国家主義教育である。1872年、政府が教部省のもとに教導職を設置し、全国の神官・僧侶などを動員しながら国民教化運動が始まった。1872年4月、「三条の教憲」が發布された。「三条の教憲」とは、「①、敬神愛国ノ旨ヲ体スベキコト。②、天理人道ヲ明ニスベキコト。③、皇上ヲ奉戴シ、朝旨ヲ遵守スベキコト。」である。その中「愛国」の由来を「日本書記持統卷ノ尊朝愛国ノ文」に求めたり（松下永福『三条考証神教大意』1874年）、あるいは「夫国の本は人なりて、人の本は君なれば、国を愛するは君を愛する所以なり」（田中頼庸『三条演義』1873年）と説いたりしているということである³⁵⁾。

森有礼が文部大臣を担当した時に、愛国心教育の「国家主義」と「軍国主義」を重視する。各国との競争場裡にあつて「国民の志気」を培養し、「忠君愛国の意」を全国に普及させ、国家利益が何より大切だという国家主義的な教育目的である。

1890年に發布された「教育ニ関スル勅語」の目標の中で、忠良臣民を育成することを明らかにした。藤田昌士は井上哲次郎著「勅語衍義」を引用して「教育ニ関スル勅語」の主意についてつぎのように述べている。「蓋シ勅語ノ主意ハ、孝悌忠信ノ德行ヲ修メテ、国家ノ基礎ヲ固クシ、共同愛国ノ義心ヲ培養シテ、不慮ノ変ニ備フルニアリ（叙三丁）」³⁶⁾。

このように、「孝悌忠信」と「共同愛国」が当時の大きなねらいだと述べられている。「第二次世界大戦」の期間に、この国家主義教育思想は最頂点に達した。それに先立って、1937年に文部省が発表した「国体の本義」は、「敬神崇祖」を主張した。「敬神」とは皇室とその祖先を敬うことである。「崇祖」とは皇室の祖先に仕えてきたという自分たちの祖先を敬うことである。「忠君愛国」として一本化された³⁷⁾。

つまり、第二次世界大戦の前には、国家発展の目標は「富国強兵」である。愛国主義は富国強兵を実現するための重要な手段である。とともに、これは戦争中の日本において愛国心教育は外国に侵略するための道具になった。愛国心教育が完全に政治に利用され、戦争の武器になった。

日本が戦敗してから、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の「教育についての四大指令」によって民主化の措置が進められたが、1949年、中華人民共和国の成立と前後するアメリカの対日占領政策の転換、それをきっかけとする日本の再軍備のはじまり、それと関連した政府の「愛国心」教育への要求と「道徳の時間」特設を含む学習指導要領の改訂、さらには国家による教育支配、教員統制という流れを指摘することができる。1950年頃から始まる戦後教育の再改革の過程は当時「逆コース」と呼ばれた。

その過程では、政府の求める愛国心は、「天皇への敬愛の念」と不可分なものである。たとえば、1958年に改訂の中学校学習指導要領の第三章道徳・特別教育活動および学校行事等の第三節学校行事等の第三指導計画作成および指導上の留意事項の六の中では、「国民の祝日などにおいて儀式などを行う場合には、児童（生徒）に対してこれらの祝日などの意義を理解させるとともに、国旗を掲揚し、君が代をせい唱させることが望ましい」と書か

れた。

1989年に改訂された「学習指導要領」第四章特別活動の第三指導計画の作成と内容の取扱いの三の中で入学式や卒業式などにおける「国旗掲揚」「国歌斉唱」をひきつづき強制している。それによって、「日本人としての自覚を養い、国を愛する心を育てる」という目的が明らかになった。

田原総一郎は、「1990年代以降愛国心が大きな問題として浮上してきたが、言論界の急速な右傾化がその背景となっているし、それまでの言論界は圧倒的に左翼だったが、今は逆の現象が起きている」と述べた³⁸⁾。ここで、市川昭午の言論を拝借していきたい。「これからうかがえるように、最近は言論界に右派が台頭し、若者の間でいわゆるプチナショナリズムが流行するなど、社会全体に右傾化傾向が目立ってきている³⁹⁾。」さらに、日本前首相小泉純一郎は立候補した時に「毎年の『終戦日』(8月5日)に靖国神社を参拝する」と言った。そのことによって、現代社会の日本には、「愛国心」に賛成している右翼勢力がまた復活してくる可能性がある。

④ 日中両国の愛国主義教育の比較

まず、日中両国は「忠君愛国」に対する大きな違いがある。中国の「忠君愛国」は抽象的である。具体的象徴がなかった。しかし、日本の「忠君愛国」は明確な目標があつて、具体的である。同じ「忠君愛国」で、中国の愛国心は「孝」を基礎にし、日本の愛国心は「忠」を基礎にする。中国で「忠君愛国」教育は重視され、国に忠義を尽くすために命を失うことができる。ただし、中国の「忠君愛国」は「仁愛」が「忠」の基礎とし、賢明な君主に忠義を尽くす。賢明な君主じゃないと、君主を廃棄する。中国の歴史上で農民蜂起の例は少なくない。

同じく、日本の「忠君愛国」は「忠」を顕わすことを主張する。「愛国」は「尊朝」、つまりは朝廷を尊ぶことと一体のものとして、天皇の統治する国家を愛する。日本の愛国教育は天皇が具体的な象徴である。昔は、皇室を名目に愛国心教育を行う。中国の愛国主義教育は「国家を愛する」「民族を愛する」という抽象的なものである。

私は今までの留學生活の中で、「A党」を愛する、「B党」を愛するなどの言論を聞いたことがないが、逆に、異口同音に「皇室」を尊敬するという人が少なくない。マスコミでも、皇室に関するニュースが大段的に報道されている。皇室が日本社会で広範にわたる関心を持たれている。

もちろん、中国でも「家族を愛する」、「郷土を愛する」を提唱するが、その前提は「国を愛する」ことである。中国では、「国」が中国の 56 民族の「家」だと言われている。その国という「家」を愛するうえに、自分の真の「家」を愛する。つまり、国家の利益が一番重要な利益である。たとえば、国家の利益と集団の利益の間に矛盾がある時に、国家利益が集団利益より優先にすることを主張されている。また、集団と集団の間に矛盾がある時に、大きな集団の利益を優先にする。

日中両国は同じ「愛国心」教育を行っているが、性質の違いがある。中国の愛国主義教育は外来の侵略から抜け出すために形成したものである。日本の愛国心教育は「富国強兵」を目標にし、軍国主義的に始まった愛国心である。

近代社会に入って、中国共産党は祖国の平和と統一のため、「国を愛する」「共産党を愛する」声が高まっている。学校教育における「少年先鋒隊」、「中国共産主義青年団」の成立が重要な手段になる。小学校から大学までには、児童、生徒、学生はその「少年先鋒隊」、「中国共産主義青年団」に加入することがとても光栄なことだと見られる。特に、「中国共産主義青年団」の中で、一般知識の学習、マルクス主義の常識、中国共産党に対する認識などの面で人物考査で合格した人は中国共産党黨員になれる。中国共産党黨員になれるまで、けっして簡単なことではないため、中国共産党員に対しては適切な優遇もある。たとえば、学校で成績が中等以上の学生黨員は高校、大学への無試験での推薦入学が可能となるのである。また、職場においては幹部の任命は中国共産党黨員から選抜するようになっている。

このように、「国を愛する」、「共産党を愛する」という愛国主義教育は身近な利益ともかかわっている。

一方、2006年に日本では、教育基本法改正が行われた、「わが国と郷土を愛する」態度、卒業式・入学式における「日の丸・君が代」の強制、「愛国心」通知表の存在や道徳の補助教材「心のノート」配布など、大きな反論の声で「愛国心」教育が再び強く求められるようになった。

そうなった理由の一つに、日本人の愛国心が薄らいできたことである。読売新聞社の調査によると、「国籍についてどう考えますか」との問いに、20才前後の40%、女性だけでは51%が「他国の国籍を取るのもいい」と答えていた⁴⁰⁾。

別の調査では、「自国民であることへの誇りを持つ」と答えた人の割合は54%に過ぎず、世界でも56位である。世界の中でも下位という事実である⁴¹⁾。

第四章 愛国心における日中道徳教育の現状と課題

第一節 現在学校教育における「愛国心」教育の問題

以下、藤田昌士の著作「学校教育と愛国心」からまとめてきたものである。「日の丸・君が代」に関する学習指導要領の中で「日の丸・君が代」がどのように規定されていたのか。その変遷を振りかえってみたい。

1958年に学習指導要領において、「日の丸・君が代」という条項が初めて規定された。当初は「望ましい」という表現に、学校現場において、「国旗の掲揚」や「国歌の斉唱」に対する指導は今日ほど強いものではなかった。その後、1977年の学習指導要領の改訂により、「君が代」を国歌と改められたことを契機として、この指導は強化された。

つづいで、文部省が1985年8月28日、各都道府県・各指定都市教育委員会教育長に対する、「公立小・中・高等学校における特別活動の実施状況に関する調査について」と題する通知を発し、「入学式及び卒業式において、国旗の掲揚や国歌の斉唱」の徹底が図られることになった。

その後、1989年には学習指導要領の「日の丸・君が代」条項が、「指導するものとする」という表現に改訂されたことにより、全国各地の入学式、卒業式などの学校行事における国旗の掲揚・国歌の斉唱の実施率が高まることになった。

1999年の「国旗・国歌法」の制定は、愛国心教育の新たな段階を意味するものであった。「強制は行わない」という国会答弁にもかかわらず、入学式、卒業式での「日の丸・君が代」強制が全国各地の教育現場で進むこととなった⁴²⁾。と藤田昌士は記述している。

なかでも突出していたのは東京都である。さらに、大内裕和によると、東京都教育委員会は2003年10月23日、「入学式、卒業式等における国旗掲揚及び国歌斉唱の実施について」という通達を出した。このいわゆる「10・23通達」は、卒入学式などでの「日の丸」掲揚、「君が代」斉唱を徹底させることを求めるものである。さらにこの通達に基づいて教職員に対して「職務命令」が出され、従わない教職員に対して処分を行うという強制力が加えられた。「10・23通達」によって処分された教職員は、2007年3月31日まで、381名に達している⁴³⁾。このように、教職員に対する職務命令と懲戒処分に見られるように、学校における卒・入学式での「日の丸・君が代」の強制が強められている。

教職員たちにとって、自分の思想・良心に反する「日の丸・君が代」を強制されている。権利・自由の意義を子どもに教えるという立場と矛盾し、その結果、人格の分裂をもたらし、極度のストレス障害の状態に陥っている。

今後、東京都の強硬な姿勢が全国に波及していく可能性がある。「日の丸・君が代」強制・強行に対する問題とそれを克服していくことが日本全国で注目されている。

一方、中国では、1990年6月28日、第七期人民代表大会常務委員会第十四次会议を通

じて、「中華人民共和国国旗法」が制定された。それによって、全国の全日制小・中学校において、祝・祭日のほか、毎週の月曜日に「国旗の掲揚・国歌の斉唱」が制定された。1990年10月1日から、中国国内で「国旗掲揚・国歌斉唱」が積極的に行われている。

私は1990年9月に中国の小学校に入学したが、教師たちは「中国の国旗は烈士の鮮血に染まった国旗である。われわれの今の幸せが烈士たちの鮮血で国を守った結果である。」と教えた。毎週の月曜において、「国旗掲揚・国歌斉唱」を行われていた。当時のマスコミも大々的に報道した。一時、天安門で「国旗の掲揚式」を見ることが光栄なことと多くの人が思った。

同じく、中国の学校教育において、「国旗掲揚・国歌斉唱」が当然な学校行事として行われている。なぜ、同じことに対して日中両国の反応がまったく違うのか、おもな二つの理由がある。

まず、日中両国の「国旗」と「国歌」を象徴することの違いがある。日本の国旗「日の丸」は江戸時代に入ってから、幕府の船印として使用されるようになったと言われている。日本は諸外国との交流が始まったことから、外国の船舶と識別するための標識であった。このように、江戸時代末期には、「日の丸」が日本の国旗として内外で認知されていたものである⁴⁴⁾。しかし、日清戦争や日中戦争を通して、日の丸の旗がかつて侵略戦争のシンボルとされた負の歴史があった。

「君が代」は、もともとは「わがきみは」ということばに始まる賀歌として「古今和歌集」にあらわれたものといわれている⁴⁵⁾。また大内裕和は『君が代』でいう『君』が天皇を指し、この歌を歌うことが天皇支配の永続を祈る意味をもつことと述べている⁴⁶⁾。

中国の国旗は五星紅旗である。旗の左上方に五つの黄色の五角の星がある。その中の一つが他の星と比べて大きい、他の四つの星は比較的小さい、大きい星をとりかこんでいる四つの小さな星から成り立てる。五角の星の色は黄色で、それは光明を象徴している。大きい五角の星は中国共産党を象徴し、四つの小さい五角は中国人民を代表している。つまり、五つの五角の星の相互関係は中国共産党の指導の下に人民の団結を象徴している。中国国旗の紅色は、祖国の平和を求めて身を捨てた烈士たちの血で染めた色を象徴している。

中国の国歌は、「義勇軍進行曲」である。中国人民がおのれの身を顧みず、民族の解放を実現するため、中国人民の一致団結と外敵の侵略に反抗する優れた伝統を象徴するものである。

日中両国の文化・立場・歴史の違いによって、「国旗掲揚・国歌斉唱」に対する認識も違うであろう。こうして、民主主義社会の日本においては「日の丸・君が代」に対して戦争のシンボリックイメージが強く、抵抗を感じる人がいるであろう。逆に、共産主義社会体制の中国においては「国歌・国旗」は「救国図存」の色彩があるため、中国の民衆に受け入れやすいであろう。

もう一つの理由には、中国は共産党一党支配の国である。五十六民族を統合するため、九年義務教育においては、同じ「教学大綱」に基づいて、全国で同じ教科書が使われている。それについて、「国歌・国旗」を児童・生徒に指導している。それによって、「国旗・国歌」について、授業の中で子どもの自主的な判断能力を養うためではなく、教師による一面的なイデオロギー的教化によって愛国主義体制を構築しようとしている。学校現場では「教育の自由」が奪われたといえる。

日本では、戦敗してから、GHQの「教育についての四大指令」によって民主化の措置が進められた。戦前のように「祖国のために死ぬ」ということを教えない。子どもの思想・良心の自由という観点を考えて、教えることである。さらに、中国の教科書制度と違って、日本の教科書は同一科目の教科書について、複数の教科書会社から発行されている。また、教育においては多様な考え方があるので、「日の丸・君が代」強制を拒否する教師の自由がある程度保障されているであろう。

第二節 愛国心が悪いのか

愛国心と言えば、どの国でも多くの人々は自国に対する愛国心を持っているように見える。特に、中国人の愛国心が非常に強いという批判的な声が高まっている。では、「愛国心」というものは百パーセント否定されるべきなのか、愛国心については、日中両国の国情から述べたい。

中国の愛国主義は、「アヘン戦争」以来の外国の侵略に対する抵抗に由来している。だから、毛沢東は、1949年（中華人民共和国の建国の際）に「中国人民从此站起来了」（中国人民がこれから立って）と言った。中国初期段階の愛国主義教育は外国の侵略と国内反動の言論に抵抗する手段である。

現在の中国政府には、「国家統一」の問題が優先順位になった。しかし、中国は長年、多民族の国であり、国家として多民族を統一するために、各民族間の関係調和と各民族の連携を形成する必要がある。その各民族が団結するため、中国の13億人の接着剤として持ち出してきたのが、愛国主義である。中国は共産党一党支配の国でもあり、その政権を維持するために、愛国主義教育は唯一の手段である。

愛国主義は、全人民、各民族を「凝集」させ、改革開放、社会主義現代化を実現させる精神的な力である。中国人民の愛国的熱情を中華振興、工業、農業、国防、科学技術の現代化という四つの現代化建設のために「凝集」しなければならない。

一方、日本の愛国心教育は、明治政府は成立した後、「忠君愛国」の道德教育を通して、それを国民に教えようとしたことから始めた。「国のために命をかける」ことこそ、愛国心の証明である。国民に愛国心を注入した。その結果、天皇と国家のため、戦争で「忠君」を發揮して、命をかけた日本軍兵士が生み出された。

現代の日本の愛国心教育は、「戦争と死のための愛国心」から「平和と共生のための愛国心」へ転換した。国家に対する価値観をかわるとともに、以前の愛国心を「愛郷心」とか「郷土愛」にすりかえられた。2006年12月15日には愛国心教育を盛り込んだ新教育基本法は成立した。「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」ことが教育の目標の一つに規定された。日本における今や愛国心教育をどう進めるかという問題は、学校教育の現場の問題となっている。

市川昭午は「愛国心の母体であるナショナリズムは、包摂と排他という両面の機能を有する」と述べた⁴⁷⁾。愛国心を育てる時、国家を代表するにふさわしい伝統的文化を国民に教える。国民はその文化に対して誇りを感じ、その誇りによって、精神的に団結することができる。

愛国心をもつことは悪いことではないが、自民族の文化を最高と考え、異民族を劣等とみなすならば、自民族中心主義に陥る危険性がある。愛国心の上に、人類愛があることを

認め、人類愛を前提として愛国心を位置づけることがいいであろう。国家という範囲に限定ではない、地球の主権者として、人類愛が優先するように考えていきたい。

おわりに

二十一世紀の今日、そもそも愛国心が必要なのか、必要であるとすれば、それはどのような愛国心であるか。イギリスの哲学者ラッセルは愛国心を否定して人類愛を教える世界市民教育を提唱した。

愛国心は「自分が所属している国を愛する心」と定義できる。自分の育った郷土を愛する心情に根ざしているが、国家体制や政治形態に感情的な関心を持つものではない。つまり、本来の愛国心は郷土愛・感情が根源にあるが、政治統合によるナショナリズムに結びつくものではない。狭く自国の利益だけを追求する「愛国心」ではない。現実には、われわれは地球市民である同時に各国の主権者である。世界の平和と人類の福祉という課題に接近することによって、「主権者の愛国心」と「平和と共生のための愛国心」を求めたい。しかし、各国家それぞれに異なる伝統的文化がある。人類愛を育てるのは、その共通文化がないである。中国でも、日本でも、愛国心をとおしての国境を越えた歴史認識共有への努力はきわめて大切なことである。

引用及び参考文献

- 1、倪冬岩 「中国における道德教育の動態」 現代社会文化研究 NO. 38 2007年 117頁
- 2、倪冬岩 同掲書 117頁
- 3、岡村 志嘉子「中国の愛国主義教育に関する諸規定」 「レファレンス」NO.647 国立国会図書館 2004年 71頁
- 4、岡村 志嘉子 同掲書 71頁
- 5、岡村 志嘉子 同掲書 71頁
- 6、倪冬岩 同掲書 125頁
- 7、倪冬岩 同掲書 121頁
- 8、倪冬岩 同掲書 120頁
- 9、倪冬岩 同掲書 121頁
- 10、江沢民は[三個代表]を提唱した。「先進的生産力」「先進的文化」「人民の根本的利益」を代表すること。
- 11、大塚 豊 「中国の道德教育変わる社会環境と道德教育の強化」「小学校道德教育資料集・実践事例集＝理論編」 ニチブン 2006年 128頁
- 12、大塚 豊 同掲書 128頁
- 13、大塚 豊 同掲書 128頁
- 14、大塚 豊 同掲書 128頁
- 15、雷鋒 中国人民解放軍における模範兵士とされる。遼寧省撫順で殉職。死後、毛沢東などの共産党指導者の言葉を引用した日記が「発見」され、彼は軍人の思想的モデルとして大きく取り上げられるようになった。今日でも政府のキャンペーンで何度も用いられ、3月5日は「雷鋒に学ぶ日」として学生たちが公園や街路などの清掃をする日となっている。
- 16、大塚 豊 同掲書 129頁
- 17、周兴隆 [贯彻落实《爱国主义教育实施纲要》深入开展地理教学中的爱国主义教育] 《中国冶金教育》1998年 81頁
- 18、藤田昌士 「学校教育と愛国心」 学習の友社 2008年 36頁
- 19、村田昇「道德教育」有信堂高文社 1981年 83頁
- 20、村田昇 同掲書 83頁
- 21、藤田昌士 「学校教育と愛国心」 学習の友社 2008年 42頁
- 22、藤田昌士 同掲書 43頁
- 23、沼田裕之 「<問い>としての道德教育」福村出版株式会社 2000年 124頁
- 24、藤田昌士 「道德教育」 エイデル研究所 1986年 21頁
- 25、藤田昌士 同掲書 21頁
- 26、藤田昌士 「学校教育と愛国心」同掲書 60頁 61頁
- 27、藤田昌士 同掲書 102頁
- 28、藤田昌士 同掲書 124頁
- 29、藤田昌士 同掲書 143頁
- 30、藤田昌士 同掲書 156頁
- 31、藤田昌士 同掲書 174頁
- 32、市川昭午 「愛国心を考える——愛国心という問題」 「教職研修」《通巻第433号》 2008年 71頁
- 33、市川昭午 同掲書 71頁

- 34、藤田昌士 「学校教育と愛国心」同掲書 36 頁
- 35、藤田昌士 同掲書 21 頁
- 36、藤田昌士 同掲書 52 頁
- 37、間瀬正次 「戦後日本道德教育実践史」 明治図書出版株式会社 1986 年 32 頁
- 38、田原総一郎、西部邁、姜尚中「愛国心」 講談社 2003 年 30 頁
- 39、市川昭午 同掲書 68 頁
- 40、読売新聞社編 「20 世紀にっぽん人の記憶」 読売新聞社 2000 年 71 頁
- 41、電通総研編 日本リサーチセンター編「世界価値観調査」電通総研 2000 年 121 頁
- 42、藤田昌士 同掲書 226 頁
- 43、大内裕和 「愛国心と教育」 株式会社 日本図書センター 2007 年 257 頁
- 44、文部省ホームページ：http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/11/09/990906j.htm
2009 年アクセス
- 45、文部省ホームページ 同掲書
- 46、大内裕和 同掲書 258 頁
- 47、市川昭午 同掲書 69 頁

参考文献：

- 1、[愛国主義教育実施綱要]1994. 8. 23
日本訳のホームページ：<http://www.kyouiku.tsukuba.ac.jp/~harahiro/kouyo.html>
(2008、1 アクセス)
- 2、余龙进 [爱国主义教育方法论纲]-----纪念《爱国主义教育纲要》颁布 10 周年 2004 年
- 3、侯志敏 黄金霞 [浅谈在小学语文教学中如何渗透德育] 《中国当代教育教学研究与实践》 地震出版社 2001 年 163—164 頁
- 4、刘怀宣 [全社会都来关心和支持爱国主义教育]----对黔南中小学贯彻《爱国主义教育实施纲要》情况的调查 2000 年 中国知网
- 5、张忠发 [加强爱国主义教育基地建设把爱国主义教育提高到一个新水平-认真贯彻爱国主义教育实施纲要的思考] 2002 年 中国知网
- 6、 郑知发 黎辉 [爱国主义教育结构分析] 2005 年 中国知网
- 7、 黄健民 [要发挥好课堂教学主渠道的作用---贯彻执行《爱国主义教育实施纲要》的做法和体会] 1996 年 中国知网
- 8、 周兴隆 [贯彻落实《爱国主义教育实施纲要》深入开展地理教学中的爱国主义教育] 《中国冶金教育》1998 年 81 頁
- 9、刘景昌 [对《爱国主义教育实施纲要》的思考与实践] 《教育探索》第 83 期 1996 年 中国知网
- 10、王丽荣 《当代中日道德教育比较研究》 2007 年 广东人民出版社

- 1 1、沼田裕之 「<問い>としての道徳教育」 福村出版株式会社 2000年 124頁
- 1 2、間瀬正次 「戦後日本道徳教育実践史」 明治図書出版株式会社 1986年
- 1 3、田原総一郎、西部邁、姜尚中「愛国心」 講談社 2003年
- 1 4、大内裕和 「愛国心と教育」 株式会社 日本図書センター 2007年
- 1 5、文部省ホームページ：http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/11/09/990906j.htm

2009年アクセス